

特別号

山北町議会  
2024.3.1 発行

# 議会活動

レポート  
2023

## 新体制から10か月

日ごろより山北町議会に対し、多大なるご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。昨年5月に議長に就任し、早いもので10か月が経とうとしています。

その間、多くの皆さまのご協力をいただきまして「おしゃべりカフェ」、「議会広報モニター」など、様々な方からご意見を伺うことができました。

いただきましたご意見は、議会改革につなげたり、次期への課題にしたりと広報広聴委員会メンバーの活動につなげられたことは、とても喜ばしく感じております。

## 前半1年を振り返って

議会は主に、総務環境常任委員会、福祉教育常任委員会の2つの常任委員会と、議会運営委員会と広報広聴委員会構成しています。

常任委員会前半1年は、それぞれ所管の問題点を洗い出し、テーマを絞り、課題解決に向けて取り組んでいます。スタート年度ということもあり、どちらの委員会もまずは先進地事例の調査研究を中心に活動してきました。

## 政務活動費の使途をチェック

また、今年度から導入した政務活動費ですが、それぞれの議員が研修や書籍購入、議員通信の発行など、有効に活用させていただいております。議会でも、こうした活動費が有効に活用されているのかチェックする機関として、政務活動費調査等審査会を立ち上げ、使用内容に疑念が生じることのないように、慎重な審査をしているところです。

## 10年後の将来を皆さまと共に

本年4月からは、町の最上位計画に位置付けられる「第6次総合計画」がスタートします。

町が掲げる10年後の将来像が、計画に基づき進められていくのか。議会としても監視機能を高め、しっかりとチェックしてまいります。

今後も町民の皆さまと共に歩み、寄り添いながら町の発展・議会活動の充実を図ってまいります。

これからもご指導ご鞭撻をいただきたく、よろしくごお願い申し上げます。



議長 石田照子  
「強妻健母」  
家事と闘っています

議長のメッセージ  
動画はこちら



## 議会の円滑な運営のために

当委員会は、その名の通り議会を円滑に運営するための委員会です。  
定例会の日程や本会議の進行手順の確定、会議規則、委員会条例、その他議会のルールを検討するなど、中心的な役割を持つ委員会になります。  
議会も「議員のなり手不足解消」に向け、時代に見合った環境整備が必要です。本年度は、子育て世代の議員でも働きやすい環境づくりや、政務活動費調査等審査会の素案作りなどを進めてきました。

## 議会運営委員会

委員長のメッセージ  
動画はこちら



和田 成功 委員長 児玉 洋一 副委員長  
大野 徹也 委員 富田 陽子 委員  
府川 輝夫 委員 熊澤 友子 委員

## 令和5年度の主な活動

- ◆議会定例会・臨時会の運営
- ◆政務活動費調査等審査会の運用素案作り
- ◆議員の出産後の勤務環境整備
- ◆議員のなり手不足解消に向けた更なる調査研究



実は年間で一番多く開催される委員会  
議会運営におけるあらゆるテーマの議論の場



子育て世代の議員も働きやすい環境に

## 広報広聴委員会



デジタル班

アナログ班

児玉 洋一 委員長  
池谷 仁宏 副委員長 他 議長を除く全議員

委員長のメッセージ  
動画はこちら



## デジタル班の主な活動

- ◆広報紙「議会のおと」発行（年4回）
- ◆広報モニターとの協力連携（アンケート集計他）
- ◆議会YouTube動画編集～配信
- ◆議会タブレット導入に向けた調査研究



定例会（一般質問）は  
YouTube で配信



「議会のおと」は広報モニターのご意見を反映し、見やすい紙面へ

## 大切なのは町民対話と情報発信

広報広聴の基本は、町民との対話と情報発信です。特に情報発信の分野においては、デジタル技術の進歩に伴いYouTubeによる動画配信やSNSなど、様々なツールが利用できる時代になりました。  
当委員会でも、こうした変化に乗り遅れることなく、今後も「おしゃべりカフェ」の継続や広報紙「議会のおと」や動画配信を活用してまいります。  
また、オンライン会議やペーパーレス化に向けたタブレット導入など、新たな取り組みも進めていきたいと考えています。

## アナログ班の主な活動

- ◆「おしゃべりカフェ」の開催（隔月20日）意見の集約とホームページ掲載
- ◆山北高校生と意見交換
- ◆各種団体等との意見交換（令和6年度予定）



「おしゃべりカフェ」は  
町民対話の重要な機会



山北高校生との意見交換  
次世代の声を町政運営に

# 福祉教育 常任委員会

## 目指すは健康長寿のまちづくり



富田 陽子 委員長  
瀬戸 伸二 委員  
熊澤 友子 委員  
府川 輝夫 副委員長  
高橋 純子 委員  
石田 照子 委員



委員長のメッセージ  
動画はこちらから



当委員会では、安心して産み育てることができる【子育て環境の整備】をひとつ目のテーマに掲げ、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」と「放課後児童クラブの運営」について調査をしています。

また、高齢者がいつまでも元気で活躍できる環境づくりと、安心して暮らせるような生活支援の充実を図るために、「高齢者生活支援」をもうひとつのテーマとしています。

2年間、このアクティブな6人のメンバーで、様々な課題について調査・研究をし、町に提言をしていきます。

## 1 子育て環境の整備

### 安全安心な子育て環境の整備

- ・令和5年11月、栃木県高根沢町を視察  
児童館「きのこのもり」では、赤ちゃんからお年寄りまで誰でも利用できる遊びのふれあいの場を提供している  
中学生が乳児を抱っこする「いのちの授業」を実施している
- ・中学生と赤ちゃんとの交流を通じ、「いのち」の尊厳を感じる授業に魅力を感じた

### 0歳から15歳までの一貫教育・保育

- ・園、小、中学校さらには学童保育や子ども教室、各種団体等、垣根を超えた組織の強化連携が必要と考える
- ・一貫教育・保育の取組みがスタートして2年が過ぎようとしているが、今後も町の特色を活かした仕組みづくりについて先進事例をヒントに継続して調査研究に取り組んでいく



高根沢町の「きのこのもり」の取り組みを学ぶ委員  
団体の垣根を超えた連携で、異次元の子育て支援を

## 2 高齢者の生活支援

### 生活支援サービスの情報提供で利便性向上へ

- ・令和5年11月、栃木県高根沢町を視察  
「高根沢町 高齢者サービス案内」の冊子を作成、配布しすべてのサービス内容や利用範囲、利用方法等の周知が徹底されている
- ・町では高齢者向けの生活支援はあるものの、利用づらいとの声もある
- ・ホームページや広報回覧のみならず、高齢者にもわかりやすい冊子の作成や戸別配布など、情報提供の方法も考えていくべきではないか

### 高齢者サロンでボランティアも利用者も元気に

- ・令和5年11月、栃木県那須烏山市を視察  
高齢者サロンの取組みが充実している市が地域自治会等へ委託する介護予防事業  
ボランティアに携わる人も利用される方も、双方が生きがいを感じ、笑顔あふれる居場所となっている
- ・健康長寿のまちづくりに更なる調査研究を進めていく



那須烏山市の高齢者サロンは笑顔あふれる憩いの場  
地域住民が積極的にボランティアに関わり、健康長寿のまちに

## 安心して住み続けられるまちに

# 総務環境 常任委員会



大野 徹也 委員長  
和田 成功 委員  
瀬戸 恵津子 委員  
児玉 洋一 副委員長  
池谷 仁宏 委員  
遠藤 和秀 委員



委員長のメッセージ  
動画はこちらから



当委員会では、継続的に調査を進めている「人口流出対策」を柱に活動しています。

コロナ禍を経て、企業・団体のみならず行政も含め、社会は大きな変化を迎えています。

こうした新しい時代にしっかりと対応していくためにも、これまで得た知見の他に、デジタル化や脱炭素社会など、幅広い分野で調査研究を進めていく必要があります。

いつまでも「安心して住み続けられるまち」にしていくために委員会活動を通じ、町へ提言を行ってまいります。

## 1 新東名スマートIC周辺土地利用のランドデザイン

### 先進地から学ぶ

- ・令和5年10月、群馬県甘楽スマートICを視察  
官庁出身者など、有識者を交えた土地利用協議会を発足し、企業誘致を積極的に進めている
- ・山北町には周辺土地利用のランドデザインを描く協議会などは、まだ設置されていない
- ・引き続き、関係団体等を交えた検討組織の立ち上げを促し、委員会としても積極的に調査を進めていく



工事の進む新東名高速道路 (R5.12 清水地区)  
ここを拠点に周辺地域のランドデザインが必要

## 2 DX (※) への取組み

(※) DXとは

デジタルトランスフォーメーションの略称。  
データやデジタル技術を活用し、ビジネスモデルや組織全体を変革すること。  
国県の補助事業もある。



空飛ぶ配送サービスは遠隔操作 (山梨県小菅村)  
10kg程度の荷物を載せ、山間地域を飛び交う



### ドローン物流サービスの可能性

- ・令和5年10月、山梨県小菅村で運行されるドローン配送サービスを視察  
国の補助制度を利用し、ベンチャー企業を誘致 (官民連携) ドローン発着所は空き家・空き地を活用 (行政が窓口)
- ・山間地を抱える山北町にも新たな配送サービスの可能性や国県の補助事業など、引き続き調査を進めていく

### 新たな地域公共交通 (AI デマンドバスなど)

- ・清水・三保地区で実施したデマンドタクシー実証実験の検証結果を受け、町内全域で新たな地域公共交通は必須
- ・町内単独だけでなく、デジタル技術を駆使した広域で運行できる公共交通も検討していくべきと考える

## 3 鳥獣被害対策 ジビエ処理加工施設運営の検証

### 「あしがらジビエ工房」施設の今後の展開

- ・松田町に設置されたジビエ処理加工施設「あしがらジビエ工房」の課題と今後の展望を検証
- ・販路拡大と足柄ジビエブランドの可能性及び行政の関わりについて継続的に調査を進めていく



令和5年秋から稼働した「あしがらジビエ工房」  
上郡5町で運営しているが、課題と今後の展望を検証